

報道関係者各位

2020 年 7 月 8 日

新役員体制のお知らせと新中期活動計画の推進

一般社団法人 くすりの適正使用協議会(東京都・中央区、以下協議会)は、6 月 25 日に第 5 回定時総会において役員改選を行い、6 月 30 日に理事会において理事長・副理事長を選任しました。

新役員は別紙1のとおりです。理事長に俵木登美子が、副理事長に高橋洋一郎がそれぞれ再任されました。役員の任期は 2 年です。

今回の役員改選においては、協議会活動の透明性・公平性を一層高めることを目的に、製薬企業会員以外の、日本医師会、日本薬剤師会、アカデミア、患者支援団体から理事を初めて招聘しました(別紙1)。

この新役員体制により、別紙2の新中期活動計画 MIRAI 20-22 を強力に推進してまいります。MIRAI は、Medicine Information-Reliable, Accurate and Informative の頭文字をとったものです。

一般の方々がスマートフォン等で様々な情報に簡単にアクセスできるようになりましたが、手に入る情報が信頼できるものであるかどうかの判断は容易ではありません。このような環境下において、2018 年 3 月に宣言した 6 団体共同ステートメント*の内容を実践し、一般の方々に、医薬品に関する信頼できる情報を提供することの重要性がますます高まっています。協議会では、新中期活動計画を定めるにあたり、改めて協議会の VISION と MISSION を以下のとおり明確化し、このもとに、「信頼できる情報を届ける基盤作り」を全体目標として新中期活動計画の活動を行っていきます。

- Vision 誰もが健康な生活を実現するため、信頼できる情報をもとに判断し、行動できる社会を目指す。
- Mission 信頼できる情報を
 - 作ります
 - 繋ぎます
 - 広めます信頼できる情報の
 - 見分け方を広めます
 - 作り方を広めます

*共同ステートメントー健康や医療・医薬品に関する情報を正しく理解していただくためにー

<https://www.rad-ar.or.jp/information/pdf/nr17-180328.pdf>

【本件に関するお問い合わせ】 くすりの適正使用協議会 山崎/安井
Tel:03-3663-8891 Fax:03-3663-8895 Mail:edu@rad-ar.or.jp

(別紙1)

一般社団法人くすりの適正使用協議会 役員 (任期:2020年6月~2022年6月) (敬称略)

	理事長	俵木 登美子	一般社団法人くすりの適正使用協議会
	副理事長	高橋 洋一郎	一般社団法人くすりの適正使用協議会
	理事	押田 卓也	アステラス製薬株式会社
	理事	赤名 正臣	エーザイ株式会社
(新)	理事	望月 眞弓	慶應義塾大学
(新)	理事	山口 育子	認定 NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML
(新)	理事	田中 裕幸	塩野義製薬株式会社
	理事	小暮 誠二	第一三共株式会社
(新)	理事	小関 敬子	大日本住友製薬株式会社
(新)	理事	村瀬 勝人	武田薬品工業株式会社
	理事	小林 義広	田辺三菱製薬株式会社
	理事	大箸 義章	中外製薬株式会社
(新)	理事	今村 聡	公益社団法人日本医師会
	理事	成田 喜弘	日本新薬株式会社
(新)	理事	田尻 泰典	公益社団法人日本薬剤師会
	理事	嶋崎 寿美代	ノバルティス ファーマ株式会社
	監事	三輪 亮寿	三輪亮寿法律事務所
(新)	監事	塩川 宗二郎	Meiji Seika ファルマ株式会社

(別紙2)

中期活動計画 MIRAI 20-22

全体目標:信頼できる情報を届ける基盤作り

1. ミルシル プロジェクト—信頼できる医薬品情報提供サイトの構築

くすりのしおりサイトは、2019 年は月平均 1,386 万ページビューを記録し、その 8 割はスマートフォンからのアクセスでした。一般の方々からのアクセスは 7 割に上り、くすりのしおりの内容をよりわかりやすく、読みやすいものに見直すとともに、このサイトをくすりのしおりに各種の患者さん向け情報を連携させたサイトとして再構築し、信頼できる医薬品関連情報を提供していきます。これに合わせ、当協議会サイト全体も再構築を行います。

※ 当該サイト構築の目的は「医療・医薬品情報を見る、知る」ことのできる環境づくりであり、ミルシル プロジェクトと命名しました。

2. 教育・一般啓発の基盤構築

医薬品医療機器法に「国民の役割」として、薬を適正に使用することと薬について理解を深めることが明記されていることを踏まえ、「くすり教育」の支援、一般社会に向けた啓発活動に取り組んできました。さらにこの活動を推進していくため、学校教育・一般啓発、それぞれの対象に応じた効果的な情報発信の方法を開拓していきます。昨今、大きな課題となっている「ポリファーマシー」の問題も含め活用できる資材の充実を図ります。

3. 患者・医療関係者連携の基盤構築

患者さんと医療関係者のコミュニケーションの重要性は、常に指摘されるところです。超高齢化社会を迎える中、介護関係者も含めた各医療関係者に応じた効果的な情報発信の方法を開拓し、テーマ別の資材の作成と充実を図ります。また、グローバル化が進む社会に対応し、英語版くすりのしおりのさらなる充実をはじめとして、多言語化が進む環境を意識した情報発信を推進します。さらに、医療・医薬品関連技術の急速な進歩に伴い、先進医療製品への理解を促し適正使用に必要なコミュニケーションが適切に行われるよう、今後発生する新たな課題にも迅速に対応できるような体制を構築します。

4. データベース研究の成果創出に向けた基盤構築

当協議会は創立以来、薬剤疫学の普及とその活用を推進してきました。医薬品の製造販売後調査の一つとして製造販売後データベース調査が位置づけられ、薬剤疫学の実践的な活用が期待されています。各種団体やアカデミアとも連携・協働し、一企業としては難しいリアルワールドデータを活用した研究の成果創出のため、その基盤作りに取り組みます。

以上